

1. ビジネスアイデアの名称

名称：ナイトスクール・サウナ ～夜の学校をビジネスの場に～

<概要>

- ①移動式サウナ(※1)やサウナテントを夜の校庭に配置しサウナを楽しむ。
- ②水風呂は学校のプールを活用。
- ③水風呂後は、プールサイド、あるいは校庭で外気浴。

※1 移動式サウナの例として、引退したバスの車両をサウナに改造した「移動型サウナバス」や、車で牽引可能な「トレーラー型サウナ」が挙げられる。

2. そのアイデアを思いついた理由やきっかけ(背景)

私はサウナ愛好家であり、最低でも月に2回はサウナに入っている。日本全体を見ても、一般社団法人日本サウナ・温冷浴総合研究所の推計では、我が国のサウナ愛好家数(月に1回以上サウナに入る人)は約800万人おり(図1参照)、また、2021年「新語・流行語大賞」に「ととのう」(サウナで満足感を得る状態)がノミネートされるなど、サウナに対する興味・関心が高まっている(ただし、昨今のコロナ影響により、人との密を避ける為にサウナに行く頻度が減っている愛好家もいるらしく、その点は注視していく必要がある)。

そのような中、街おこしの一環でサウナを活用する自治体が増えており、例えば、大分県豊後大野市は2021年7月に「サウナのまち」を宣言し、サウナを活用した地方創生に取り組んでいる。この度、多賀城市のビジネスプランコンテストのニュースを拝見し、多賀城市においても、サウナで街おこしができるのではと考え、思考を巡らせた。

調査を続ける中で、サウナバスやトレーラーサウナの存在を知ったが、それらの弱点として水風呂が無いことが挙げられる。その弱点を克服するアイデアとして、学校のプール活用を発案した。インターネットで調べる限り、学校のプールを活用したサウナ事業者や自治体は見受けられない為、もし実現すれば、全国初の先駆的な取り組みとなり、多賀城市を全国にPRする良い機会になるだろう。

個人的にも「熱々のサウナの後に広いプールで体を冷まし、広い校庭で外気浴できたらなんて幸せなことだろう。キッチンカーにも来てもらい飲食もできたら、更に最高だ」とワクワクしている。以上のような思考プロセスを経て、このアイデアを発案した。

図1 日本におけるサウナ愛好家の推計人口（ヘビーとミドルを足すと約800万人になる）

愛好家推計（人口）

頻度 （詳細）	調査年度（調査時期の翌年リリースとした年もございます）						
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
ヘビー	月に15回以上	335,607	331,234	241,599	273,886	330,245	206,153
	月に9～14回程度	1,023,861	1,313,938	1,030,251	980,199	1,070,564	824,756
	月に4～8回	2,259,094	2,231,793	2,115,955	2,099,386	1,990,306	1,526,605
	ヘビー小計	3,618,562	3,876,966	3,387,804	3,353,471	3,391,115	2,557,514
ミドル	月に3回以下	2,622,476	3,210,086	2,742,581	2,499,785	2,416,852	2,138,038
	月に1回程度	4,085,519	4,492,789	4,017,765	4,163,305	3,510,887	3,075,090
	ミドル小計	6,707,995	7,702,876	6,760,346	6,663,090	5,927,739	5,213,127
ライト	2～3か月に1回程度	5,570,640	5,604,977	5,671,362	5,456,381	4,697,138	2,736,900
	半年に1回程度	6,310,379	5,842,989	6,317,070	6,878,204	6,403,533	2,897,834
	1年に1回程度	6,579,091	5,538,005	5,333,334	5,892,537	5,417,905	2,331,846
	ライト小計	18,460,111	16,985,972	17,321,766	18,227,122	16,518,576	7,966,580
全体合計	28,786,667	28,565,813	27,469,917	28,243,683	25,837,430	15,737,221	

出典：一般社団法人 日本サウナ・温冷浴総合研究所【日本のサウナ実態調査2021】（最終閲覧日：2023年1月7日）<https://kyodonewsprwire.jp/release/202103041811#:~:text=>

3. アイデアの内容

(1) 内容

- ①移動式サウナ（写真1・2）やテントサウナ（写真3）を夜の校庭に配置し入浴。
 - ②水風呂は学校のプールを活用。
 - ③水風呂後は、プールサイド、あるいは校庭で外気浴。
- 加えて、夜間の校庭にキッチンカーを呼べば、飲食を楽しむことも可能。

写真1：移動式サウナバスの例



※出典：株式会社リバース / サウナイキタイ【サバス】
（最終閲覧日：2023年1月7日）<https://sabus.jp/>

写真2：移動式サウナバスの内部



※出典：株式会社リバース / サウナイキタイ【サバス】
(最終閲覧日：2023年1月7日) <https://sabus.jp/>

写真3：テントサウナの例



※出典：NHK NEWS WEB【「海上サウナ」で地域活性化を 利府町】
(最終閲覧日：2023年1月7日)
<https://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20220525/6000019417.html>

(2) ターゲット

①多賀城市内のサウナ愛好家。推計 4,359 人。

計算式は、【多賀城市の人口 × 愛好家率 (1 億 2000 万人中 800 万人)】

$$\text{【}62,277 \text{ 人} \times 7\% = 4,359 \text{ 人}\text{】}$$

②テントサウナユーザー・テントサウナに関心がある人

多賀城市は地理の特性上、山や清流沿いといったアウトドアを楽しむ場所が少ない。よって、多賀城市民がテントサウナを楽しむ場合、市外へ行く必要がある。このことから、近所で気軽にテントサウナを設置できる場所があれば、活用するユーザーがいるのではないか。また、テントサウナ等サウナグッズの販売事業者を呼んで体験会を実施すれば、彼らにとっては拡販のチャンスとなり、テントサウナに関心がある人にとっては気軽に体験できる機会となり、Win-Win なイベントを開催できるだろう。

(3) 解決できる課題

①【土地の課題】ビジネスに活用できる土地が少ないという課題

多賀城市の面積は 19.69 平方 km と宮城県の自治体の中で 3 番目に狭く、また、市域の 1/4 が遺跡であり、開発できる土地が限られている。従い、多賀城市において新たなビジネスを創出する際は、既存施設か地下、上空、仮想空間を活用することが効果的であろう。今回は学校という既存施設の活用を通して「ビジネスに活用できる土地が少ない」という課題を解決したい。

②【財政の課題】多額の費用を投入できないという財政の課題

一般論になるが、今後の地方財政は、人口減少と少子高齢化の影響で逼迫していくことは明白である。財源に限られる中、多額の投資を必要とする事業は市民には受け入れがたいだろう。このような財政の点で、今回のアイデアは大規模投資が不要であり、万が一失敗したとしても財政へのダメージが少なく、ローリスクである。必要な経費としては、サウナバスを借りる費用（自前でサウナバスを作る場合は改修費用）、プールの水道代、運営管理者への委託費用等が考えられる。しかし、バスを改修する場合でも、引退車両を活用すれば車両のリサイクルに繋がり、プールの水道代についても、夏場は学校の授業で使うため注水済みである。加えて、バスをサウナに改造する場合は、中小企業庁が実施している事業再構築補助金制度の対象になりうるので、国の支援も期待できる。以上の点から本アイデアは、最低限の経費で済み、失敗時の金銭的リスクが小さく、挑戦しやすい事業と言えるだろう。

③【ビジネスの課題】移動販売事業者の営業時間帯は昼間に限定されるという課題

キッチンカーをはじめとする移動販売事業者は、基本的にビジネスをする時間帯が昼間に限定されており、夜間の売上機会を作り出せていないことが多い。例えば、お弁当や軽食を販売するキッチンカー事業者の売上機会は、主に昼食時間帯に限られている。本アイデアで夜間のビジネスチャンスを創出することで、彼らの商売を後押しできるだろう。

4. 多賀城市や近隣地域への影響

(1) ビジネスイノベーション

多賀城市への影響としては、学校という教育機関をビジネスの場に活用する点で行政におけるイノベーションであり、「多賀城市が面白いことをやっている」という評判を作ることができる。メディアに取り上げてもらえれば、認知度向上が期待できる。また、バス会社や移動販売事業者、サウナ関連事業者といった民間企業にとっても下記のようなイノベーションを生むことができるだろう。

例えば、バス会社の事業は、主に路線バス等の旅客運送業と、バスツアー等の旅客サービス業の2つに分けられるが、新たな事業としてサウナバス派遣事業が加われば事業を多角化でき、事業環境の変化に柔軟に対応できるだろう。事業環境の変化の例としては、今後、テレワークの普及によるバス利用者の減少や、電動キックボード等の小型モビリティの台頭といった変化が考えられるが、その環境変化による収益減少分を、サウナバス派遣事業で埋め合わせができるのではないかな。

近隣地域への影響としては、サウナバス派遣事業は、仙台光のページェント等の大規模イベントから、町内会の夏祭りといった地域に根ざした小規模なイベントにまで幅広く展開できる事業であり、近隣地域の活性化に貢献できる。

(2) 他業界とのコラボレーション

サウナバスやテントサウナの利点の1つに、男女共同で入れる点が挙げられる。そのメリットを活かして婚活・街コン事業者とのコラボも可能であろう。例えば、通常、街コンの会場はホテルの宴会場やレストランで行われるが、それをサウナバスやテントサウナ内で実施する。参加者には、サウナ内で談笑し、暑くなったら男女一緒にプールに入り外気浴をしてもらう。このような特別な体験を共有することで親密度が上がるのではないかな。更に、このサウナ街コンにはサウナ好きしか集まらないはずなので、参加した男女は既に共通の趣味がある状態であり、マッチング率の向上が期待できる。

(3) 健康増進・予防医療

多賀城市の課題として、20以上の病床を持つ医療機関が1つしかなく（仙塩総合病院）、入院時は市外に出なくてはならない可能性があり、そこは不便さの1つだろう。その不便さを極力小さくするには、日頃の健康増進・予防医療が重要である。そういった観点において、サウナは非常に効果的だと言える。日本サウナ学会の加藤医師によれば、「サウナには自律神経を整え、血管の弾力性を増す効果があり、疲労回復や睡眠の質の改善、認知症、心筋梗塞などの心血管病の予防に有益」とのことである。（インタビューのURL：<https://medical.jiji.com/topics/2679>）。ナイトスクール・サウナで多賀城市民の健康増進を促すことによって、入院できる医療機関の少なさという課題解決に間接的に貢献できるのではないかな。

5. サウナを活用した街おこしの例（No.6は仮で多賀城市を記載）

No	地方自治体名	プロジェクト名	内容
1	大分県豊後大野市	サウナのまち	大自然を生かしたアウトドア・サウナを観光資源として地域おこし。
2	山梨県	やまなし自然サウナととのいプロジェクト	富士山や八ヶ岳といった日本でも有数の観光資源を活かして、上質なアウトドアサウナを提供。
3	北海道札幌市	サウナの街サッぽろ	札幌の各観光地でサウナを楽しめるイベントを実施。
4	鳥取県	ととのう とっとり	豊かな自然を活かしたサウナ体験や、2泊3日でサウナと鳥取の観光地を旅する「サウナツーリズム」を実施。
5	北海道十勝地方	十勝 サ国（サウナ共和国）プロジェクト	十勝の自然環境を活かしたサウナ体験を実施。 凍った湖や川の氷に穴を開けて水風呂の代わりにするアヴァント体験も実施。
6	宮城県多賀城市（仮）	ナイトスクール・サウナ	夜間の学校をビジネスの場に開放し、校庭でのサウナバスやテントサウナ体験、学校のプールを水風呂代わりにするユニークな体験を提供。.

6. おわりに

募集要項によれば、本コンテストの目的は「多賀城市の新たな魅力の創出」と「ビジネスイノベーションの創出」と記載されている。つまり、**革新的なビジネスアイデアの募集**だと理解している。「ナイトスクール・サウナ」は、夜間の学校をビジネスの場として活用する点で革新的であり、また、引退したバス車両をサウナに改造することで、県内、市内のバス会社（仙塩交通様など）の収益源の多角化が期待でき、まさに本コンテストの目的と合致していると考えている。本アイデアが、多賀城市の皆さまに貢献できるものになれば嬉しく思う。

以上